

会 議 錄

会議名	第6回辰野町立小・中学校あり方検討委員会
開催日時	令和7年1月30日（木曜日） 午後6時30分～午後8時30分
場所	辰野町民会館 大会議室
出席者	出席者 委員17名中13名、教育委員5名、事務局3名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員長挨拶 4. 協議事項 5. その他 6. 閉会
会議結果	<ol style="list-style-type: none"> 4. 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回までの経過と協議の方向性 事務局より説明。「辰野町立小・中学校あり方検討委員会の経過と協議の方向性」について、資料に基づいて説明。 (2) 「小中一貫校」と「義務教育学校」について、学習会。前回残された課題について事務局の説明。 (3) 「学校をどう集約していくか」 2グループに分かれてグループ討議を行い、記録係がグループごとの検討内容等を発表。 5. その他 次回の委員会は4月に開催の予定。
発言者	発言の内容
教育長	<p>2. 教育長あいさつ</p> <p>皆さんこんばんは。1月もいよいよ今日明日を残すのみとなりました。つい先日、新年の挨拶を交わした、そんな気がするわけですけれど、実に早いものでもう一ヶ月が経とうとしております。</p> <p>さてそのような大変お忙しい中を、第6回目のあり方検討委員会にご出席いただきます。</p> <p>前回の委員会において急激に進む少子化に対応した新たな学校のあり方を検討する中で、もう現状維持は無理だろう、集約しなければならない、という結論に至り、前回は近年の学校統廃合の手段として導入されるようになっております小中一貫教育の学校と義務教育学校についての学習会を行いました。</p> <p>さて、今日からはいよいよこの辰野町にとってどのように集約をしていくのかというように具体的な議論に入っていくようになります。ここで再確認しておきたいことは、第3回目の委員会等で私が話をさせていただいた部分でございます。もう一度確認させていただければと思いますけれども、少子化が進む辰野町にあって、急激に子供の数が減少していくけれど、子供の学びの環境は維持されなければならない。子供たちにとって夢や希望が持てる、あるいは期待持てる学校でなければならない。子供たちには、子供の数が減少していくても常に語り合える友達、学び合える友達がいる、そういう</p>

う学校環境を提供しなければならないと。子供たちにも町民に対しても子供の数が減っていく中で、減っていくので仕方がない、仕方なく学校を閉じるとかやむを得ず学校を統合しなければならないというような、ある意味、ある種の切なさだとか衰退感を意識させるのではなく、子供の数は減ってはいるんだけど、ここに新たな学びの学校ができるんだという、そういう認識が持てるような学校を作っていくみたい、こんな話をさせていただきました。

今日の協議の中で重要なまいりますので、委員の皆さんには再度、児童数の状況を確認していただければというふうに思っております。

この辰野町の人口は皆さんご存知のように、昭和 55 年をピークに減少に転じております。コロナ禍前までは穏やかに減少しておりましたけれども、このコロナ禍以降、想定していた人口推移をはるかに上回る減少を示し、それに伴って子供の数も想定をはるかに上回る勢いで減少していることは、委員の皆さんもご存知だらうと思っております。

今日の資料の中にある資料 No. 6 という横長のものを出していただければと思います。第 1 回目の委員会のときにもお示しした数字をちょっと大きくしたものでございます。2024 年令和 6 年、まん中よりちょっと左側のところですね、これが今年ということになります。一番左の令和 3 年度をご覧ください。小学校の合計が 802、これが令和 3 年度の小学生の合計の人数ということあります。ずっと見ていきますと減少しておりますけれど、ちょっとご記入ください。令和 3 年度を基準としますと令和 4 年は 778 ですからマイナス 24、令和 5 年マイナス 42、今年令和 6 年マイナス 83、来年以降令和 7 年マイナス 122、令和 8 年マイナス 158、令和 9 年マイナス 207、令和 10 年マイナス 218、令和 11 年マイナス 248、令和 12 年一番右端ですがマイナス 277、つまり令和 12 年になりますと令和 3 年よりも 277 名児童数が減少するということになります。今年度、令和 6 年度と比較しても 5 年後になりますとマイナス 191 ということになります。201 からもう一つその小学校の計のところの令和 6 年までは全校児童数なんすけれど、令和 7 年度から 2 段になっております。680、654 という、この下の段が、小学校の全児童数ということになります。上の 100、112、89 は何かというと、このときの 1 年生つまり入学児童ということになります。つまり令和 7 年今年の 4 月に入学する児童数は 100 人、来年は令和 8 年度は 112 人、ここまでは 100 人台すけれど、令和 9 年からは 80、89、68、76。これが新入生の数。ただ誤差が当然出てまいります。こういうような状況の中で私達この委員会が頭に描いている新しい学校の姿は、まさにこの令和 10 年度以降の早い段階ということございます。令和 10 年度以降の早い段階といいますと、この表の右側の児童生徒数の子供たちが在籍しているであろうときの学校を作るということになります。一番右側の欄の児童生徒数です。今日は中学生の数は紹介しませんけれど、この右側の児童生徒が通っているであろう学校をイメージするということになります。

今までの委員会において、皆さんからは、もう学校は集約していかなきやいけないよという、こういう結論が出たわけですけれど、その集約の仕方も四つにわかれおりました。

	<p>改めて紹介させていただきますと、この後事務局の方からも説明がございますけれど、一つは小中一貫校にしよう、二つ目は義務教育学校にしよう、この二つは多くの委員の皆さんが言っていたわけでございます。それに対して三つ目四つ目というのは、多くの人じやなくて1人の委員の方の意見ということになります。お1人ということになりますけれど東と西を一つにして南を残したらどうかということと、低学年は地域で高学年はまとめたらどうだろう、こういう意見でございます。</p> <p>今日はここからスタートすることになりますけれども、頭の中には先ほどの表の一番右側の児童生徒数を今日は取り上げながらということでお願いしたいと思います。</p> <p>急激な少子化に対応したこれから時代にふさわしい辰野町の学校としては、学校を集約つまり統合して新たな学びの場を作る、その学校は子供たちにとって明日に繋がる新しい希望の持てる学校である、こういうスタンスを持って今日これから議論をしていただければありがたいと思います。大変お世話になります。よろしくお願ひします。</p>
委 員 長	<p>3. 委員長挨拶</p> <p>改めまして皆さんこんばんは。2月に挨拶するとどうしても時候の挨拶や中身がだぶってきますので、用意したものを少し話をしたいと思います。今日あたりはだいぶ寒いんですが、寒中でありますけれども、年内でも最も寒い時期のわりには、何か今年は少し感じが違うなと思いながら、今日も過ごしました。今週末はもう2月で、2月2日は節分、3日は立春ということになります。先日荒神山に行ったときも、もう福寿草の花も咲き始めておりました。もう春の気持ちになりそうなんですが、まだまだ寒い日が続いて降雪も実際にちょっとあったわけなんですが、もうしばらくは冬ということで、体には十分お互いに注意をしていきたいなと思います。</p> <p>寒い中、検討委員会においていただきありがとうございます。</p> <p>先日の1月25日の信毎のところに教育長さんの方と少し関係していますが、2024年全国の出生数が70万人を割ったという記事が載っていました。2019年が90万人、22年が80万人、23年が72万7000人で本年度は69万人で70万人を切るだろうということと、今まで3年くらいで10万人減ったのがそれは2年なり1年になると。そんなことで非常に多くの出生数が減ってきていると。大体長野県も6%ぐらいずつ減っているつていうのがありました。辰野町でもこれはまだ正確ではないかもしれません、令和6年は71名の出生数というふうに聞いております。これは先ほどから出ている数字は年度であったりしますので、正確にはそのままの比較はできない場合がありますけれども、かなり減ってきているのは確かであります。</p> <p>先ほども年度ごとに1年生の数を教育長さんの方でいくつかおっしゃいましたけれども、私も前回その前になりますかね、令和12年度あたりのところを考えていかないといけないよということを皆さんにお話をしました。10年後の令和17年、先ほど教育長さんおっしゃっていただきましたが、そのところの1年生の数は76人であります。そして、その前の年の令和16年は68名。そんなことを考えるとですね、極端な話西小学校の1年生が68名で入学式をやった、あと南小と東小は来入児なしというそういう状況ですよね。本年度6年度の6年生の子供が140人近くいて、16年のときの1年生が68名で半分以下という、実際の数の上では非常に心配する数字であります。先</p>

ほどの表をせっかく事務局が作ってくれましたので、資料6の一番最後のところで1年生が68とか76とありますが、これは例えば最後の令和12年の76っていう子供の数は、令和6年のちょうど0歳児に当たるのかなと思うんですが、資料3っていうその表を見ていくと結局一番少ないときが68という数字が出る。またあるいはその次の年76と若干増えていますが令和6年度のように71と増えたり減ったりするのは確実にその数が減ってきてるっていうそういう現実があります。令和7年と令和12年のところを比べたこともありましたが、みんな20%以上南小は13%でしたけれども、かなり減ってきて、子供の数も一気に80人以上が減ってるような状況があります。それでそういう人口の面いわゆる子どもの面と、もう一つは前回話題になりました信濃町の信濃町立信濃小中学校のことを思い出してみるとですね、平成17年2005年に信濃町に小学校適正配置検討委員会っていうのが答申を出していて、その答申の7年後の2012年に施設一体型の、これは新築したらしいんですが、小中一貫教育校が開設されてそしてまたその4年後の2016年に義務教育学校に移行していると。信濃町の方では検討委員会の答申が出された後に、小中一貫校までが7年、義務教育学校設置までが11年かかっているということですね。人口も違いますし、また新築の校舎を作つてそこに一気に移動したっていうこともありますので条件は違いますけれども、急激な児童数の減少の中を見通した、いわゆる子供たちにとってよりよい教育の環境を充実させなきやいけないっていうふうにやってそれでも11年かかってるわけですね。そうすると、辰野町の急激な児童の減少ってのは先ほどから話題になってますけれども、やはり危機感を持って準備していくないと、その子供たちの教育環境の充実が、新しい学校の設置が大幅に遅れているところが気になるところであります。

第4回の委員会の冒頭で私も触れましたけれども、少子化の進展に対応した新たな学校の必要性とか、また学校の集約等を進めて新たな学校を設置していくという方向の意見を皆さん話を進めたわけですけれども、集約をしていくにはやはり解決をしなければいけない課題とかあるいは配慮していかなきやいけないことがたくさんあるかと思います。今日のこれから討議にもありますが、小学校をいつ頃どのように集約をしていくのか。その後小中学校を集約して義務教育学校の設置に向けてどのように進めていくのか。また集約の方法は、あるいはいつ頃どうなったら、あるいはどのように道筋を立てるか、あるいは通学はどうするのかなど早急に取り組み、今後の見通しを立て、検討委員会として可能な限り中身について提言をしていきたいと思います。もちろんこれから討議の前にも話をしますが、具体的な数字で何年からとかいうのは当然無理であります。十分承知の上ありますが、ある程度の皆さんの意見をこれからに反映させながらこの検討委員会としての提言に結びつけたらなと思います。

今日のグループ討議の方は学校をどう集約していくかについて後半の時間を使って討議をしていきたいと思いますので、次回以降見通しが持てるような皆さんの活発な意見を期待したいと思います。よろしくお願ひします。

4. 協議

- (1) 前回までの経過と協議の方向性
- ・事務局説明をお願いします。

委員長

事務局	・会議資料に基づき事務局説明。
委員長	4. 協議 (2) 学習会「小中一貫校」と「義務教育学校」 ・事務局説明をお願いします。
事務局	・会議資料に基づき事務局説明
委員長	4. 協議 (3) グループ討議「学校をどう集約していくか」 ・資料 No.5 を基にして事務局の方で進めてもらっていいですか。
事務局	<p>それでは本日のグループ協議についてお願いしたいと思います。</p> <p>資料 No.5 で、今までのこの検討委員会、そして本日の位置づけについてまとめさせていただきました。前回まで5回検討委員会を開催させていただきましたけれども、第1回目の委員会では、検討委員会の設置要綱の確認、町内小中学校の現状把握、町内の子供の数の推移と各学校の児童生徒数の推移について学習を行い、質疑応答、意見交換を行いました。第2回目から4回目までは、これからの中学校教育に求められるもの、辰野町の目指す教育を共通理解し、その後、三つのグループに分かれてワークショップ方式で協議を行っていただきました。これからの中学校時代にふさわしい辰野町の学校のあり方、これをメインテーマにいたしまして、少子化の進展に対応した学校、これからの中学校たちに必要な学び、地域と共にある学校等を着眼点として協議を行っていただき、委員の皆様から本当に様々なご意見をいただきました。そして3回のワークショップを通じまして、「今の現状のまま小学校を残すことは子供たちにとっては好ましくない。ここで思い切って何らかの形で小学校を集約しなければならない」という方向が出されました。そして、前回第5回目では、何らかの形で集約をするってことを受けまして、その集約の方法ですかとか、学校統廃合の手段として導入されるようになった小中一貫校と義務教育学校について学習会を行いました。そして第6回、今回になりますけれども、学校をどう集約していくのか、辰野町はどんな集約の仕方が良いのかってことを二つのグループで協議をしていただきたいと思います。そこにありますように第4回のグループ討議において皆さんから出された集約のあり方、小中一貫校、義務教育学校、それから小学校を集約しいずれ小中まとめる、このようなご意見が出されております。これは第5回、前回の論点整理のところで出させていただいたものです。あと、西と東で大きな学校で南を小さな学校として残すとか、低学年は地域、高学年は一つの施設ということを、それぞれ1人の方からご意見をいただいております。これをもとに学校をどう集約していくかってことを協議していただきたいと思いますが、その際冒頭の教育長のご挨拶もありましたように、仕方なく学校を集約するとか、やむを得ず学校を統合する、そういう意識ではなくて、この辰野町の子供たちのために、夢や希望の持てる新しい学校を作る、そういうスタンスを大事にしていただきながら、協議をしていただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
委員長	それでは(2)のグループ協議、学校をどう集約していくかっていうところであります。先ほども話題になってますが、小学校1校に集約後少子化の進展に対応した学校の

	最終的な姿として小中一体型の新しい学校、小中一貫校あるいは義務教育学校の設置ということになると思うんですが、それについての検討を進めて、それぞれの集約の方法ですかね、あるいは設置の時期なども含めて今後どのように進めていくかなどについて討議していくという、そういう方向でよろしいですか。
事務局	はい。
委員長	<p>そこで先ほど事務局でまとめてもらった資料 No.5 もあるわけなんですが、二つに分かれてやっていくその中身ですが、まず小学校3校の集約、その次の段階の小中の集約っていうふうに時間的にも経済的にも段階を踏んでいくことになるかと思うんですが、今日はまず小学校3校をどう集約していくかという、そんな方向で協議を進めていくということでおよろしいですかね。その後小中一貫のところまで至ればと思います。小学校3校をどう集約していくかっていうことの話し合いをしながらですね、その後の最終的な姿といいますか、一つの発展的なところで、小中一体型の新しい学校としての小中一貫校あるいは義務教育学校の話題も絡めながらで結構ですが、どう集約していくかっていうことについて、これから討議の方に移っていきたいと思います。</p> <p>それでどう集約するかっていうのがそれぞれあるかと思います。先ほどからもいろいろ出てきました。例えば集約する方法、手段、あるいは時期のこととか、いつ頃とか、人数の問題とか、集約の手順とかですね、あるいは環境整備の問題とか、学校を設置する場所とか財政面とか本当に多岐にわたると思います。また保護者や地域住民の方々、町民の皆さんとの理解を得ていくっていう準備の関係、あるいは取り組み方として委員会みたいのを設置して先ほどおっしゃられたような形でやっていく方法もあるでしょうし、教育課程の問題もあるかと思います。非常に多岐にわたりますけれどもそれぞれちょっとお考えいただいて、そこを討議していきたいと思います。</p> <p>この後、とりあえず小学校3校をどう集約していくかっていうところを柱に話し合いたいと思います。またそこから発展をして小中一貫のいわゆる小中一体型の学校に発展していくわけですが、どんなふうに集約をしていくか2グループに分かれて話をする前に、7、8分位しか取れませんが、自分の考えをまとめていただく時間をとりたいと思います。というのは今日初めてこの討議の柱を見るわけですよ。委員の皆さんについてはそのあたりを今まで話し合う時間も、考える時間もあまりなかったと思いますので、それぞれ今後どんなふうに集約していくかっていうところをお考えいただいて、それからそれぞれにわかつて協議の方を進めていきたいと思います。7、8分たったところでまた声掛けさせていただきますのでよろしくお願いします。</p>
委員	すいません、前回の議事録のところにですね、町の財政とかそういうこともあるので、1月23日に次回の総合教育会議が予定されているので、その中の議題で検討委員会の進捗状況を報告しながら町との情報交換を考えているというふうに書いてあるんですけども、そのことについて説明がないと思うんですけど、そこは課長さんにしていただくことはできますでしょうか。
課長	1月23日に総合教育会議を行いましたが、教育委員会の事務局から説明したのは、このあり方検討委員会の今後のスケジュールについてまででした。ですので学校が集約される時期ですかね、財政面等について、スケジュール的なところはまだ全然わかつ

	おりませんのでそこまでは言及はしておりません。
委 員	先ほど委員長もおっしゃっておりましたけれども、時間的な部分、いつまでに集約をするのかとかそういったところもだんだん気になってまいりますので、計画が出ると私達も話がしやすくなると思います。
教 育 長	<p>その部分については非常に難しいところなんですね。このあり方検討委員会をいつまでにと区切ってみましてもなかなか困難ですので、私、第1回目の委員会のときに発言させていただきました。このあり方検討委員会は、令和10年度以降の早い段階でと先ほど言葉を使わせていただきましたけれど、先ほどのこの表を見ていただいてこの一番右端が令和12年になってますんで、この令和10年以降のできるだけ早い時期の学校を描きたいということでございます。</p> <p>あり方検討委員会の提言が教育委員会に出されて、教育委員会として検討してまいります。具体的に時期はどうするのか場所をどうするのかっていうのは、教育委員会の仕事になります。町側と常に協議しながら、教育委員会としましても、これまた令和10年度以降のできるだけ早い段階で、とにかく子供たちの学びのために、お願いしたいことはこれから要求していかなければいけないと思います。ゴールっていうのは確かに大事なことなんんですけど、例えば令和10年に新しい学校にしましょうって、このあり方検討委員会でここまで決めてくるのは無理なんです。ですからあくまでも私はあり方検討委員会での時期っていうとき、令和10年度以降のできるだけ早い時期についての表現が適切なのかなというふうに思ってるんですね。またご意見あつたらお聞かせください。</p>
委 員 長	<p>児童生徒数の変化っていうか現象とかそういうものを元にして、ここでやってほしいと言っていくのは私は構わないと思います。ただ先ほど言ったように、実現は難しいかもしれないけれども、こういうことを考えていくことをここでやっていただければいいんじゃないのかっていうことは、ぜひ意見の中で言っていただいて結構だと思います。それは即実現することはなくとも、こういうことからこんなふうに考えるってことはもうそれぞれ意見として出していただいて結構あります。</p> <p>もうしばらく時間をとりますのでお願いします。</p> <p>先ほど教育長先生おっしゃったように、令和12年度以降の早い段階で実現できればというふうに思っているというそういう表現とか、あるいはそんなに遅くない段階で何とか形にしていく努力をしたいということで、具体的には今おっしゃったようにですね、何年度からとかそういうものについては、当然その方向性は出ないと思います。しかし、先ほど言いましたように、具体的な数字を出してもその実施実現について簡単にはいかないと思いますけれども、具体的な考えも一緒に出していただいてですね、今後の取り組む方向性を出していくことができれば、この委員会としての一つの役割を果たせるような気もします。集約するについて考える中で、心配なこととか、不安なことも出てくると思いますので、それもあわせてまず小学校3校をどう集約していくか、またその先を見てどんなふうにしよう小中を集約していくか、これよりABに分かれて話をしたいと思います。</p> <p>今それぞれお考えを書いていただいたのを元にして、ぜひ活発な討論、また次回に繋</p>

	がるようなお話をお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。
委員長	時間になりましたので A グループの発表をお願いします。
A グループ記録係	<p>A グループでは、それぞれの内容を発表していただいて、その後にそのことについての話し合いを進めるという形で進行しました。</p> <p>皆さんの意見の中には、基本的には将来的に 3 校を 1 つにとか、小中学校 1 校っていうことがベースにあるんですが、その方法として段階的に小学校を一つにしてそれから小中学校にしているという意見が出ました。また、川島小がそうだったんですけども、統合というと地域の理解を得るのがやっぱり一番大変だということでした。段階的にやるとそれだけ時間がかかるので、一気にやってしまった方が財政的な面から進めるのはいいんじゃないかという意見も出了しました。学校のキャパの問題で、今ある学校に一つにするっていう意見もあったのですが、あの建物については地域の方の思い入れがあるので理解を得るのはなかなか大変じゃないかっていう意見が多かったです。結論的なものは出なかったんですが、地域の理解を得るには大変な準備がいるんだろうということです。例えば通学手段にしても、どのような通学手段を確保するというのを具体的に示していくかないと地域の理解を得るのは難しいんじゃないか。通学手段に限らず今後いろいろ洗い出しをして統合に係る準備、説明ができるような状況にしてからやっていくということが必要じゃないかという意見が出されました。</p> <p>拙いまとめになってしましましたが以上です。</p>
委員長	B グループお願いします。
B グループ記録係	<p>小学校を集約するということについては、既存の建物をまず使うのがいいんじゃないかという意見が出されました。また、今の保護者とか若い方はあまりこの検討について知らない人も多いのではという意見が出たんですが、パブリックコメントですとか詳細な資料ですか、教育ビジョンもつけて、紙や電子媒体、ホームページなどを使って新年度落ち着いた段階で周知をしていくという意見が出されました。</p> <p>小中一貫については、小学校中学校は建物を分け分けた方がいいのではないかという意見が出ました。また、建物のキャパシティを考えいかなければいけないということで、新しく建てるには財政がちょっと厳しいことだという意見が出ました。</p> <p>集約について子供やその保護者の理解が大切ということで、みんながわかっていて統合が進んでいく、そういう必要があるということでした。資料 No. 6 の児童生徒数の推移からすると、新校舎っていうことにしてみればちょっと建てられないのではないかということですけど、並行して集約の際のきまりといいますかシステムの構築を進めた方が無理がないという意見が出ました。</p> <p>子供たちに身につけてほしいことですが、大人の言う事をよく聞きなさい、みんな一緒に仲良く同じようにするっていうことと、資料 No. 4 の 4 行目のところとは逆のことを言っている、そこは考えさせられるところです。</p> <p>小学生と中学生がいて、大人も刺激が受けられるので、義務教育学校は長いスパンでよいという意見が出ました。低学年は地域で高学年は一つの学校ということについては、兄弟のことを考えると、やっぱり 1 年生から 6 年生は同じ学校が良いという意見が出ました。また、交通の便でしたり、危険区域でないところが小学校の場所としてふさ</p>

	<p>わしいという意見が出ました。先生が余裕が持てる仕組みが必要だという意見もありました。</p> <p>信濃町は10年かかったんですが、人口が減っている中でもっとスピード感を持って、ここ6年くらい、半分ぐらいの時間で進めた方がいいという意見が出ました。また、横の繋がりが必要なので、とりあえず既存の建物を使いながら、自由に学年のカリキュラムを作れる、個性能力を伸ばせる義務教育学校はいいのではないかという意見がありました。</p> <p>以上になります。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>十分な時間が取れずに終わってしまったっていう感もあるわけですが、一つの方向にまとめるとかじやなくて、皆さんのお考えをお聞きして、私自身も、やっぱり子供のためにこういう教育をしていきたいってことをきちんとしないと理解してもらえないっていう、これが基本だろうなってことを思いました。若い人の意見、先ほども周知されてないってことがありましたが、どういうふうに取り上げてそれを生かしていくかというその辺のところで、私、こんなふうにいいたらいいんじゃないかというものが先走ってしまって、皆さんの協力を得るためにどんなふうにしたらいいかっていうことも含めた上での先の見通し、何年度じゃなくてそんなことも考えていかないといけないなってことを今改めて思っているところであります。</p> <p>次回ですが、今のところを事務局を中心にまた精査していただき、皆さんの方に行く通知の中に、今日話し合う内容の中身が反映するような形でと一応要望します。今回も準備ができないところもあったような気がしますので、もうちょっと皆さん方がまたおうちの方でも我々に意見を聞けるような、そのような討議の柱を立てられればいいなと思います。そのこともまた相談をしていきたいと思っております。</p> <p>それでは協議事項のその他、何か皆さんの方ありますか。よろしいですかね。協議事項を終わらせてもらいます。</p>
事務局	<p>5. その他</p> <p>今年度の検討委員会は今回が最終で、令和7年度は4月中に第7回と考えておりますけれども、また日程等を加味しながら通知を差し上げたいと思います。</p> <p>委員の皆さんの中に、各団体の代表としての任期が終わりになる方がおられると思うんですが、新年度になって新しい方が決まったところで事務局の方へお知らせいただければと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
副委員長	<p>6. 閉会</p> <p>それでは第5回のあり方検討委員会を終わります。お疲れさまでした。</p>